

郡上おとどり研修旅行報告



2005年（H17） 9月吉日
三夜踊り保存会

研修旅行の記

一岐阜県郡上市八幡町郡上おどりー

1. 研修旅行行程

日本三大民謡の一つに数えられる「郡上おどり」の見学並びに研修に行って参りました。運良く体が空けられ、踊り好きの19名で行きました。

7月16日朝10時、文化会館より、しとしと雨の降る中を出発。しかし、日頃の精進のお陰かどんどん天候が良くなり、暑いくらいの日になりました。バスの中での和気あいあいの会話、倉田先生の口ずさむ郡上音頭のBGM、パーキングでのショッピングや記念撮影等、楽しい旅の往路を過ごしました。そうして、予定通り、ごご3時過ぎ、郡上八幡の旅館「満州屋」に到着しました。



荷を解く間もなく、田中さんの号令のもと、旧庁舎記念館へ直行。郡上おどりの講習を受けました。小1時間の講習で、高齢者(?)を除く比較的若手のメンバーは、「かわさき」「春駒」の二種類の踊りをマスター。お陰で、落ちこぼれの面々まで講習の修了証書を頂きました。



引き続き、郡上おどり保存会の担当者の方との懇談会が行われました。この懇談で、いろいろな話をお聞きしました。

郡上おどりは、誰でもすぐに踊れるようになる最高に楽しい盆踊りであること。7月のはじめから9月のはじめまで2ヶ月の間、32日間にわたって、縁日おどりが繰り広げられること。道や広場の真ん中に「屋形」を移動させ、その周りを輪になって踊ること。8月13日から16日の4日間は、数万人の踊り子が夜を徹して踊り明かすこと。郡上おどりは、四百年前にはじまったと言われていること。江戸時代に特に奨励されたこと。郡上おどりには、「かわさき」「春駒」「三百」「ヤッチク」「古調かわさき」「げんげんばらばら」「猫の子」「さわぎ」「甚句」「まつさか」の十種類あること。郡上おどりは、献身的に支える70名以上の「郡上おどり保存会」の会員をなくしては成り立たないこと。その保存会員の努力で、シーズンオフにも郡上おどりの普及がなされていること。縁日おどりを支えているのは、自治会はじめ、まちづくりネットワークやお囃子クラブ、「おどりすけべ」と言われる人たちをはじめとした地元の住民であること等々。

そのほか、数々の問題点やその克服の経過もお聞きしました。おどりを教える

人たちは、保存会の人で、十数人が常時参加。謝礼も出しているとのこと。しかし、予約が多く大変だとのこと。後継者の育成には、学校の授業その他、ジュニアクラブやお囃子クラブ等で行っていること。しかし、台座「屋形」に乗る人は、大体固定していること。おどりも大体決まったものをおどってもらっているが、昔踊りをする人、仮装で踊る人等いろいろだということ。若者の養成がなかなかであること。三夜と同じような問題を抱えているように思いました。メンバーも、次々と質問しました。その一つ一つに丁寧に答えて頂きました。今後の「三夜踊り」及び三夜踊り保存会の活動にとって、大いに参考になった一時間でした。



町並みを散策後、宿に帰り、それなりのもてなしのうちに夕食を済ませました。浴衣に着替えた乙女たちに従って、8時に宿を出発。上郷町での郡上おどりに参加。彼女たちと若い方々は、11時過ぎまで、踊りました。それこそ、昔からこの町で踊っていたかのように踊りの波に溶け込んで、習った二種類の踊りだけでなく、いくつもの踊りを身につけていました。



翌17日。早朝から、何人もの方が、町並みや山頂の八幡城に向かい、朝独特の、水の町の風情に心を和ませました。おいしい朝食をいただき、徒歩で昨夜踊りのあった上郷町の「博覧館」を見学。ガイドさんの、素敵な説明を聞き、研修。さらに、ガイドさんについて、町並みを歩きながら、いろいろな話を聞きました。研修の最後は、斉藤美術館での、神秘の音「水琴窟」の音色に聞き惚れ、抹茶等をたしなみました。静かな町並みと踊りの熱気、暮らす人々の結びつきの密度の濃さを感じながら、満足感でいっぱいになりながら帰途に着きました



2. 参加者の感想抜粋 (順不同)

- ①、一番印象に残ったのは、「郡上おどり」を観光資源として、皆が大切に思っているということでした。踊り手のほとんどが県外からの人だということから思いました。輪島でも、「三夜踊り」を貴重な観光資源として認識し、ホテル・民宿などの観光業者が上手に利用して、生かして欲しいと思いました。(Sさん)
- ②、地域も商売に重きを置きながら、水を生かした町にし、「郡上おどり」の雰囲気づくりに一役買っている。また、観光客を踊りに引き込むための取り組みで、一人500円の講習料を取っていることに驚いた。この強さは一体なんなんだろう？(Oさん)
- ③、若い男の人、女の人がたくさん踊っていました。それも、自由にアレンジして踊っていました。三重の人、長野の人、大阪の人、たくさん他の県からの参加者がいました。スウェーデンの留学生も15人踊っていました。みなさん、「郡上おどり、最高！」と語ってくれました。これは、何をおいても、『踊りが楽しい』からだと思いました。(Kさん)
- ④、今回で4回目になりますが、何度来ても、輪島市との土壌・風土の違いを感じます。交流会での話を聞いて、「後継者の育成とか若者の踊り手のこと等、私たちと共通する問題を抱えているんだなあ。」と思いました。しかし、踊りに対する町民・行政の、熱の入れ方の違いを強く感じます。この研修旅行で得たものを、今後の三夜踊りにどのように生かしていけるか、ゆっくりと考えたいと思います。(Nさん)
- ⑤、障害のある方々が、違和感なく受け入れられている状況に感動しました。(Tさん)
- ⑥、総合的に、大変有意義な研修旅行でした。その地の土壌が、その地の生活や踊りを育てているということ、再認識しました。三夜踊りも、もう少し、踊りを多様化していくことを考えても良いのではないかと思います。(Oさん)
- ⑦、普段の生活道路を利用した町流しなので、踊り手の少なさも感じず、踊り手も恥ずかしいという感情なしに輪の中に入ることが出来、踊りやすそうでした。観光客や地元以外の方々、若者や初めての人が多いのは、踊りに「動き」が有り、「活力」が有り、「簡単」で、「覚えやすい」ことが要因だと思いました。三夜踊りも、「正調三夜」を大切にしながらも、「それ以外の三夜」(若者に受け入れやすい、スポーツ感覚の)の創作に努力してみても、どうでしょうか。(Tさん)
- ⑧、保存会の人数や踊り手の減少といった、私たち三夜踊りと共通する部分があるのに、2ヶ月に渡り行われるということに驚きました。保存会と行政のチームワークの良さを感じました。三夜も、昔は、町内ごとに踊り、それから大きな輪の中へ入っていったものですが、ここでは、それを中心に行い、成功しているように思います。踊りも、いろいろな種類があり、とても楽しく輪の中に入っていくことが出来、良い体験になりました。(Hさん)
- ⑨、踊りが1パターンが簡単で覚えやすく、誰でもすぐ踊りの輪の中に加わることが出来るのがよい。車椅子の方も参加していたことが、感動でした。踊りの場所が、町内ごと移動するので、自分の町内にきた時に出て踊れるのいいなあ

思いました。(Yさん)

⑩、バイタリティーあふれる踊りに感動。2時間ほどを楽しく過ごしました。町並みも素晴らしく、輪島市も少しでもそうなるように願っています。(Nさん)

⑪、自治体や地元住民の支援、観光によるアピール、町内会の協力など、地域ぐるみの努力によって、三夜踊りを広く知ってもらうことが大事なんだなあと思いました。(Yさん)

⑫、講習会で、事前に、「郡上おどり」を二種類習ったことで、ずっと踊りの輪に入ることができました。三夜踊りもそんな講習会を、観光客対象にもてると良いと思いました。5種類くらいの踊りを体験しましたが、それぞれに覚えやすく、みんなの熱気に誘われて、2時間半も、汗だくになって踊ってしまいました。

行政のバックアップも強力なので、市が郡上おどりを「第一の観光資源として捉えているんだなあ。」と思いました。地域とのつながりも、昔の輪島のように、お囃子や踊りと密着していて、「強いなあ。」と思いました。

町並みも風情があって、各家の俳句、常に流れている水の音、石畳の打ち水、いろいろ良いものを残そうとする官民一体の意気込みが感じられました。

輪島にも、「やれやれ」や「もじり」等があると聞きますが、のりの良い音頭なら、若い子たちも興味を持つと思います。

イベントに出られた郡上おどり保存会の人たちに、1000円程の補助があると聞いて、羨ましく思いました。(Mさん)

⑬、インターを降りて、町に入ると、すぐに目に付いた提灯や会場案内板、昼の踊りの講習会など、郡上八幡の方々の郡上おどりに対する気迫を感じました。先代からの大切な贈り物に、若い人たちのパワーが重なり、踊り手の笑顔が輝いて見えました。今日来たばかりの私たちも、すぐに覚えられ、踊りの輪に加わることが、郡上の町の賑わう夜を作り出しているのだと思いました。三夜踊りも、そんな存在にしたいと思いました。(Tさん)

⑭、たくさんの人で賑わい、何よりも笑顔で踊っている様子に、気持ち良く入り込める雰囲気がありました。踊りは、簡単で、まるで以前から踊っていたかのように、すぐに踊りの輪に入れました。郡上おどりの良さですね。

三夜を何とか楽しくといつも考えていますが、その教え方に統一性がないことが気になります。踊りの輪の中に入り込めるような雰囲気も足りないように思います。情緒あふれる三夜踊りを、みんなで守り、伝えていきたいと願っています。努力していきます。(Hさん)

⑮、踊りは、やっぱり三夜踊りの方がいい。(?さん)

⑯、町の至る所に、清らかな水の流れがありました。その水を大切にし、楽しみながら生きてきた人々の中から生み出されてきた、シンプルで躍動感のある踊りでした。照れや恥ずかしさを、ちょっと抑えることが出来れば、すぐに入り込め、とけ込めるものでした。今の三夜踊りには、少し足りない気のある雰囲気のある踊りだと感じました。何人かのコメントにもありましたが、障害者の方が数人車椅子で、狂ったように踊る姿が、その事を証明していると思いました。

ままならぬ様々な状況に翻弄されながらも、何百年も力強く伝え続けてきた、民衆の文化遺産だと感じました。家々の造り、その繋がり、町並み、俳句の浸透、茶の湯のたしなみ等々、郡上の風土と解け合って作られた独特の文化なんだなあと思いました。

私たちの三夜踊りも、輪島の町の風土と解け合って、その良い中味の、ひと味にならなければなあと、改めて感じました。(Oさん)

3, まとめ **《三夜踊りは最高!》**と言ってもらえるものに

まとめをしようと思いましたが、それは、皆さんに任せようと思います。ただ、皆さんが、個々にまとめるときに、まとめやすいように、感想の項目をいくつかあげておきたいと思います。

- ・「郡上おどり」は、「観光資源」。三夜踊りも観光資源に。
観光アピールの必要性。行政と町民と保存会の一体化を。観光協会、ホテル、民宿等との提携、協力を。
- ・郡上おどりと街作りを一体化。輪島も。
自然を生かした街作り。街流しの出来る街。町内毎の三夜踊りを。行政は、資金の援助とアピールを。
- ・「三夜踊り」の量と質の向上を!
踊りの多様化(やれやれやもじりその他)を。動きがあり、エネルギーにあふれ、覚えやすく、楽しい踊りに。
- ・後継者の育成
若者の踊りの評価。アレンジした踊りの評価。講習会の在り方。指導者への金銭的補助。指導の在り方。

今回の研修旅行は、大変意義のあるものだったと思います。参加した方は、どの方も、これからの三夜を興隆させたいという思いのもと、たくさんのご意見を吸収してくださったと思います。それが、今回の感想に表れていると思います。こんな機会を又作ってくださいという意見が多数ありましたが、そう出来るよう、考えていきたいですね。

4, 《 ありがとう 》

みなさんのお陰で、このまとめをすることが出来ました。有り難うございました。これを、今後の皆さんの活動に、是非生かして欲しいと思います。

ところで、このまとめは、沖崎邦俊さんに多大なご協力をして頂いたお陰で、ここまでのものに出来ました。その事を、皆さんに報告すると共に、沖崎さんに御礼申し上げます。

今後も、「三夜踊り」の保存と発展に、皆さんの知恵とご協力を願ひ致します。

(三夜踊り保存会事務局)